生徒心得

我々は光輝ある伝統ある北見北斗高等学校生徒であることを誇りとし、これを受け継ぐと共に、さらにより美しい校風を創造するよう、絶えず努力と精進を続けていこう。このために我々は、先生と生徒及び生徒同士の信頼と友愛の上に立って、豊かで民主的な学園を育てるよう、さらに一層努力しよう。この心得は先生と生徒との協力によって生まれた生活基準であり、我々生徒は高校生としての立場を自覚して自主的・積極的にこの心得を守り、明るく健全な高校生活を送るよう努めなければならない。

◇礼儀に関すること

言葉遣いや態度は、常に丁寧にし、教職員及び来訪者に対しては礼儀正しく、生徒同士においても敬愛の念をもって接すること。

◇服装に関すること

服装はその人の品位をあらわすものであり、華美なものは避け、端正な服装に心掛けること。通学には制服を着用し、本校指定のバッジをつける。

1 帽子

(1) 帽子は防寒用としての着用はよいが、装飾目的の帽子はさけること。

2 制服

(1) 男子

ア 上下黒詰襟学生服として体型に応じたものとする。

(ラウンドカラーではない制服は必ず襟カラーを着用する)

イ 夏季は上衣をはずし指定ワイシャツを着用する。

ウ 上衣丈は極端に長く、又は短くせず、ウエストを細くしないこと。

エ 変形ズボン認めない。

オ ソックスは無地の白、黒、紺、グレーとする。

カ ベルトは黒・紺・茶とする。

(2) 女子

ア セーラー服の上衣丈はウエストから 8 ～ 10cm 下の寛骨のところとする(短いため下着が見えるのは見苦しい)。ネクタイの長さは調和を考慮のうえ、結び目から 17cm で作られているので、特別短くしないこと。

イ 夏季には略装として上衣のみ半袖白ブロードセーラー服(袖の長さは肘上 10cm 程度)とし袖の折り返しは 3cm でステッチが入っている。ただし学校行事等で特別の指示のあるときは制服を着用すること。

ウ スカートの長さは流行にとらわれることなく、セーラーとのバランスを考慮し、膝頭中心より下 10cm 程度とする。

※女子でスラックスの着用を希望する等、相談に応じています。

エ 制服には黒ストッキングとする。防寒用のソックスを重ねるときは無地物とし、色は黒・紺・グレーとする。夏セーラーには無地白ソックスとする(しま入り・柄

物は禁止)。ソックス着用の時期については、なるべく更衣に合わせるのが望ましく、健康管理を常に考えること。

オ リボン類は落ち着いた色の無地とする。

カ 指定カーディガンは校内での着用を認める。ただし、集会時と職員室内は不可。

3 校章・ボタン・バッジ類

(1) 男子は右襟に学年章、左襟に校章のバッジをつける。

女子は胸ポケットに刺繍した校章の左に学年章をつける。

男子の指定ワイシャツ着用時は刺繍した校章の右に学年章をつける。

(2) 男子制服には本校指定のボタンをつける。

4 履物

(1) 通学時の履物は靴を用い、靴は夏・冬をとわず踵の低いもので、健康上堅実な型を選び、色も派手にならないこと。靴の長さについては、ロッカーに入るものとする。

(2) 靴は上靴・外靴の区別を明らかにし、上靴は指定のものを使用する(踵を踏まないこと)。

5 その他

(1) 女子の夏服着用は、6月から9月までを原則とする。

(2) 男子の指定ワイシャツ着用による登下校は女子の夏服着用期間に準じる。

(3) コート、ジャンパー類は通学にふさわしいものを選ぶ。

(4) 頭髪については特に清潔を保ち、高校生らしいものとする。パーマメント(ウエーブ)・染髪は禁止する。

(5) 生徒の鞆は手提げ鞆・スポーツバッグ・リュックサックとする。

(6) やむを得ぬ理由で所定の服装を着用できない場合は、異装許可願を提出して許可を得ること。

◇校内生活に関すること

1 生徒は始業5分前(8時20分)までに登校すること。

2 登校後の無断外出はしない。止むを得ず外出する場合は必ず担任の許可を得て許可証を携帯すること。

3 校舎内外の清潔と整頓には十分留意し、校舎・施設及び校具などを大切に扱うこと。万一破損した場合は担任に速やかに届け出る。事情によっては弁償させることもある。

4 欠席・欠課・遅刻・早退等は所定の手続きをふんで担任に届け出る。

5 集会の際は速やかに集合し、静粛に規律正しく行動すること。

6 清掃は毎日放課後各分担区域を責任をもって行なうこと。

7 下校時間は原則として、16時40分とする。以降、居残る場合は定時制の授業等に配慮すること。部活動については別に定める。

8 休業日の校舎・校庭の使用は所定の様式で届け出ること。

9 休業日における生徒の登校について

(1) 登校の服装は制服とする。

(2) 許可された場所以外は使用しないこと。

(3) 下校時間を厳守すること。

- 10 所持品には必ず記名し、学校・教室等に置いて帰宅しないこと。貴重品は担任に保管してもらうこと。
- 11 所持品を紛失・遺失・拾得した場合は直ちに HR 担任または担当教師に届け出ること。
- 12 校内における印刷物の配布・掲示及び集会は事前に届け出て許可をうけること。

◇校外生活に関すること

- 1 外出に際しては行先・用件・同行者・帰宅時間等を保護者に明らかにし、通常は午後 10 時までとするが午後 9 時以降の外出はつとめて控えること。外泊は原則として禁止する。
- 2 社会的に禁止されている次の場所への出入又はそれらの行為はしない。
 - (1) ダンスホール・麻雀荘・パチンコ店・その他の遊技場及び酒類を提供することを主目的とする店等への出入。
 - (2) 教育上好ましくない映画及び興業物。
 - (3) 飲酒・喫煙・シンナー。
 - (4) 暴行・恐喝・強要等の行為。
 - (5) 万引・窃盗等の行為。
 - (6) ゲームセンター及びビリヤード場への出入りを禁止する。
- 3 ボーリング場の出入りは午後 5 時までとする。
- 4 通 学
 - (1) 通学にあたっては交通道德を守り、事故のないよう常に心掛けること。
 - (2) 道路を横断するときは、必ず横断歩道を通ること。
 - (3) 交通機関を利用する場合には、高校生としての品位を保ち、他人に迷惑をかけないようにすること。
 - (4) 自転車通学を希望する場合には、所定の手続きをし許可を受けること。
 - (5) 自転車通学生は所定の場所に自転車を置くこと。
- 5 下 宿
宿舎は学生生活に適したところを選ぶこと。

◇定期試験に関する諸注意

- 1 試験に際しては、絶対に不正行為をしないこと。
- 2 机の配列は 5 列とし、廊下側から出席番号順に着席すること。
(各列の間隔は、机間巡視ができるようにあけること。)
- 3 受験中は、机の中に教科書・参考書・ノート・プリント等を入れておかないこと。
- 4 「カバン」等は必ず自分のイスの下に入れておくこと。
- 5 机上には、筆記用具のみとし、それ以外のはカバンの中に入れておくこと。
- 6 机の落書きは消しておくこと。
- 7 問題用紙の配布は各列の前から順おくり、回収は各列最後の生徒が行うこと。
※試験期間中は、欠席をしないように心掛けること。

◇その他の諸注意に関すること

- 1 身分証明書は常に携帯し、紛失の際は速やかに届け出て再発行してもらうこと。
- 2 生徒においては、物品の売買や金銭の貸借は行わないこと。
- 3 分散会・歓送迎会等は、担任あるいは担当教師を通して届け出をし許可を受け、教員の管理下で行なうこと。ただし、校内・公共施設を利用することが望ましい。
- 4 校内の風紀を乱すような行為はしない。いかなる理由があっても暴力行為はしないこと。
- 5 下記の項に該当するものは所定の様式で届け出て又は許可を得なければならない。但し13・15・16は口頭でよい。
 - 1 転・退・休・復学
 - 2 欠席・欠課・遅刻・早退
 - 3 忌引(父母7日以内、祖父母・兄弟姉妹3日以内、伯叔父母1日、その他の親族1日)
 - 4 証明書交付
 - 5 集会・居残り・休業中の登校
 - 6 キャンプ・登山・旅行
 - 7 職場実習・アルバイト
 - 8 異装
 - 9 住所変更
 - 10 保護者・保証人の変更
 - 11 車両免許取得
 - 12 自転車通学
 - 13 紛失・拾得
 - 14 校舎使用
 - 15 校舎破損
 - 16 災害事故

通学規定

- 1 自転車通学について
 - (1) 自転車通学を希望する生徒は、保護者の許可を得て、自転車通学申請書を生徒指導部へ提出し、学校長の許可を得ること。
 - (2) 自転車通学をする生徒は、自転車保険に加入し、所定のステッカーを自転車に貼ること。
 - (3) 交通法規を遵守し、交通マナーを守ること。
- 2 バス及び列車通学について
 - (1) 学割を申請する場合は、事務室にて所定の手続きを行うこと。
 - (2) 公共の交通機関である趣旨を理解し、乗車マナーを守ること。
- 3 自動車での送迎について
 - (1) 歩行生徒の安全に配慮し、原則として本校敷地内で乗降しない。
 - (2) 登下校時、本校周辺道路の渋滞を避けるため、本校出入り口周辺での乗降をしない。
- 4 生徒の安全を守る趣旨からオートバイ及び自動車の運転免許の取得及び運転しての通学は認めない。ただし、3学年については、運転免許取得を以下の条件のもと認めることがある。

- (1) 四輪免許取得条件を以下に定める。
 - ① 就職が決定していて保護者の許可があること。
 - ② 「運転免許許可願」を生徒指導部へ提出し、学校長の許可を得ること。
 - ③ 運転免許取得は冬季休業からとすること。
 - ④ 卒業年度終了まで運転しないこと。

アルバイト規定

- 1 アルバイトについては、高校生の本分である学業を優先する趣旨から、原則的に認めないものとする。
- 2 やむを得ぬ事情でアルバイトをする場合は、所定の手続きにより学校長の許可を得ること。ただし、校内及び職種等の条件を満たしていること。
 - (1) 保護者と担任の許可を得た上で「アルバイト願」を生徒指導部へ提出する。
 - (2) 生徒指導部の審議を経て、学校長の許可を得る。
- 3 アルバイトのための校内条件を以下に定める。
 - (1) 成績や出欠状況に問題がないこと。
 - (2) 学習や学校生活等に支障のないこと。
 - (3) 就業期間は長期休業中とする(ただし、新聞配達は例外とする)。
 - (4) 3 学年に在籍し、卒業見込みであり進路が内定した生徒について、就業可能な期間を冬期休業からとする。
- 4 以下の職種、及び労働条件の就業は認めない。ただし、安全な業種においての家内従事は例外とする。
 - (1) 危険な作業への従事(建設、道路工事、有害物質取扱、運転・同乗をともなうものなど)。
 - (2) 風俗営業、訪問販売などの特殊な接客を伴う業種や形態。
 - (3) 遠距離通勤や宿泊を要するもの。
 - (4) 労働基準法その他の法律等に反するもの。